

これからのことを…4の(11)

●方丈記からその10



1185年元暦の大地震(ネットより)

前回方丈記災害 1. 飢饉の補足から

前回は方丈記の飢饉から始めて、江戸時代天明飢饉の青森県のお話を立川昭二さんの「病いと人間の文化史」の中から紹介しました。餓死の所では目を覆うほどの人食いの話が多数あり、それでも取って代わって人が生まれてきたことは意義あることだと自分に言い聞かせていました。だからこそ余計に、方丈記の中の人を想う人が愛する人に食べ物を譲って先に亡くなる、という情愛の場面が心に響いてきます。日本でも世界でも飢饉、飢餓、疫病は歴史をつき動かすほどのもの。そのことは今のコロナ禍でもよくわかります。飢餓は過去の話ではなく、世界に今も多数存在しています。

八幡まるごと館だより

2021年5月6日/138号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

また、長明さんのような生活するのは難しいですが、自分の生活を本気で見直し、災害の時困らないような生活をどうしたら作り出せるか、です。

これが個人だけではなく、取り組める人の集まりが作れたらいいなあと。

方丈記災害 2. 大地震

すさまじい大地震がありました。そのさまはいつもの地震と違って、山は崩れ、河を埋め、海は傾いて、陸地を水浸しにしてしまったのです。大地は裂け、水が噴き出し、岩は割れ砕けて、谷底にころげ入る。渚を漕ぐ船は波に漂い、道ゆく馬は足元を踏み迷っています。

『…都のほとりには、在々所々、堂舎塔廟、ひとつとしてまたからず。或はくづれ、或は倒れぬ。塵灰たちのぼりて、さかりなる煙の如し。地の動き、家やぶる音、雷にことならず。家の内に居れば、たちまちにひしげなんとす。走りいづれば、地割れ裂く。羽なければ、空をも飛ぶべからず。龍ならばや、雲にも乗らむ。おそれの中におそるべかりけるは、ただ地震なりけりとこそ覚え侍りしか』

恐ろしいことの中で最も恐ろしいのは地震だとわかったと。1185年7月9日正午頃

マグニチュード七・四、震源地は京都盆地の北東部。この地震は養和の飢饉から3年後のことです。1995年の阪神淡路の地震や2011年3月11日の東日本大震災に近い規模だったと言われます。

でも、すぐ忘れてしまう

余震が長く続きました。

『すなはちは、人みなあぢきなき事をのべて、いささか、心の濁りもうすらぐと見えしかど、月日重なり、年経にし後は、言葉にかけて言ひいづる人だになし。』

当座はこの世のむなしさを述べて、少しは心の濁りも薄まるかとも見えたけれど、年が経てば口に出している人さえいなくなってしまったといえます。このことは2011



鴨長明

年3月11日の東日本大震災についてもいえることで、毎年3月がくれば報道されますが、過ぎると何事もなかったようにピタっと止まります。

<苦難の中を生きてきた人と…>

実際に震災によって身内を亡くした人は会えない触れられない中で、死者1で語られることに決して納得されてはいません。ご本人の悲しみ、苦しみは10年という時間だけではどうにもならないもので、きっとそれぞれの方が手探りで人との、自然とのつながりの中で何かをつかもうと、その苦悩の中を生きぬいて来られたのだと。今回のコロナ禍にも当てはまりそうです。

また、原発事故によってふるさとを奪われた多くの人も沢山おられ、突然地域とのつながりを断たれ、ほんとうに苦しい日々を重ねておられます。手厚い保護どころか既に自己責任論がはびこって、誰も責任をとろうとはしていません。

震災のことが忘れられてしまうのは何故なのか?それは当事者じゃないからと言われます。自分がその立場だったら、と考える

ことが大事なことはないかと思えます。

忘れないためには当事者の気持ちを少しでも知ろうと、その被災の実態を、話を聞く。それでもなかなかですが、第三者のままで過ごしていたら、当然つながることができないし、被災した人の気持ちはひとつもわからないです。でも、自覚できているかどうかは別にして、人は“他とつながりたい、わかりあいたい”を内包しているように思います。弱い所を持つ人間どうしだから。つながるきっかけはきっとあります。

ただ、悲しいかな、この所ずっと国のトップはそういう目を持たないし、被災者に寄り添っていないし、気持ちが他の所に向いているように感じられて仕方がありません。今のままなら、辛い人はより辛いままで、そこから立ち上がるには人と人のつながりがどうしても必要になってきます。

<自然と人間は>

物理学者であると同時に随筆家の寺田寅彦(1878~1935)は地震、理化学研究所でも活躍しました。「文明が進むと人間が自然を支配しようとし、重力に逆らい、風圧水力に抗するような造営物を作り、自然の猛威に打ち勝つたつもりにも、でも、自然はどうかした拍子に檻を破った猛獣のように人命を危くし財産を亡ぼす」(「天災と日本人」)と言います。その災禍をおこさせたのは何と言っても自然に反抗する人間の細工で、災害を大きくするようにしたのは文明人そのものだと。そして、日本全体が1つの高等な有機体で、高等動物の神経や血管と同じようで、そこに1箇所でも故障が起きれば影響はたちまち全体に及ぶのです。文明が進むにつれ損害の程度も累進する傾向があるという事実を考慮して防御策を講じることが必要だが、天災はたまにしか起こらないので人間が忘れたころにやってくるというのです。

しかし、寺田寅彦が生きた頃はそうだった

かもしれませんが、現在は毎年のように災害が。もとは、人間は自然の一部であるということをおぼろげに忘れた不遜さが招いたこと。世界中がです。長明が組み立てた方丈庵なら災害で崩れても、また作り直すことが出来そうですが。

今はどこでも危険が潜んでいます。そのことを自覚した生き方が求められています。

「これからのことを」書いてきたのは

このコロナ禍の1年以上、特に今年4月変異株と言われるものの出現によって感染力が増大してきました。その中で休みなく張りつめて働かれる病院関係者の方々、職を失いひとりで子供を育てる方、授業料が続かなくなった学生さん等多くの方々が苦しい思いをされておられる。今までの当たり前が当たり前でなくなるという事態の渦中にいて、どう考えていったらよいのか。

まるごと館という人が集まる場に、人が集く4月にこんなことをしました



12日リハーサル

12日(写真の日)19日の町内の演奏会に向けてこの所使ったことがない譜面台を出して練習です。こんな時ですから人数も限られています、ひと



19日吉井松里町内会②



絵手紙講習会

14日 この日森本玲子さんが持って来られてカニや苺等を皆さん描いておられました。久しぶりの参加者の方もおられました。6月のミニギャラリー

まるごと館という人が集まる場に、人が集く4月にこんなことをしました。まるごと館という人が集まる場に、人が集く4月にこんなことをしました。まるごと館という人が集まる場に、人が集く4月にこんなことをしました。

今から思うと本当に甘っちょろいですが、11年間まるごと館と共に歩いてきて、出来ていたことが出来なくなる。これが自分にとってどういうことなのか、ということだったのです。昨年4月より書き始めました。まるごと館としてどう考え、どう動いたらよいのか、と。7月からは方丈記を下へ続きます

7月からは方丈記を下へ続きます



19日吉井松里町内会①

つの張り合いになっています。自分たちで自己流に練習していて声をかけて下さる所があるのは感謝です。そういう経験を共有してい

く中で、仲間のような関係になっていたら。公会堂のコンサート準備大変だったのではと。色々ありがとうございました。



での絵手紙展にむけて、皆さんが準備中です。今まででは一番少ない展示数になるかと思いますが、意欲的に、気持ちに力が入るきっかけに。



22日 この日出口修さんは江戸時代の安居神事について話されました。家康が八幡宮領に361通の朱印状を發給して守護不入や検地免除を約束した代わりに、何をもらんだのか。武家の

繁栄や安泰をこの神事で祈ってもらおうとした。この神事で財を使うことで頭役の財力をつぶすことを目指したそうです。具体的には次回でみっちり。

八幡まるごと館 5月・6月の予定 5月1日(土)~5日(水)は休館します

<パソコン教室>	毎週月曜日 10時~12時です
5月10日(月)10時~12時	5月17日、24日、31日 パソコンを持って来て下さい。費用 300円(コーヒーつき)
<オカリナクラブ ひまわり>	楽しめる時に
5月10日(月)13時~	参加費100円 17日、24日、31日 練習日は月曜日だけに
<絵手紙講習会>	次回は6月9日(水)です
5月12日(水)午後1時30分~	講師 森本玲子さん 参加費 400円(コーヒーつき)
<楽しい理科の実験 N038>	振り子で遊ぼう
5月21日(金)13時30分~	講師木下章司さん 参加費300円(コーヒーつき)
<歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N029>	
5月27日(木)13時30分~	講師出口修さん 参加費100円 月1回です
<ぬか床材料販売>	5月中に申し込んで下さい。6月初めにお渡しします
2019年まで講習会を行なっていますが、昨年同様ぬか床材料をセットで販売いたします。材料(ぬか 1Kg みそ大1 昆布 5~10g 塩 160g 赤とうがらし 2本 サワドパン 1枚 ニンニク 2片(醤油漬けのニンニク))とレシピを渡します。250円です。	
<まるごと館絵手紙展>	どうぞお越し下さい
6月24日(木)~7月4日(日)	文化センターミニギャラリーへどうぞ
9時~17時30分です	
但し6月30日(水)は文化センターはお休み	

読み進め、今から800年以上も前に生きた鴨長明が書いた方丈記から、素人で無茶ではありましたが、苦勞しながら読み書きし、今に至っています。方丈記の特に記憶に残ったところとして、いくつか取り上げて書いてきました。特に800年前の長明さんの山中の生活は今を生きる私たちに、素の暮らしを喚起させてくれるし、災害の飢饉や地震では今を読み解く知恵が、詰まっているように思いました。長明さんがちょっと身近になりました。この6月でまるごと館は12年になります。次回はよいよ方丈記最終章に入ります。

<あんなこと・こんなこと>
* 昨年4月より更に厳しい状況のコロナ禍の中、より気を付けて参加して下さる方々に感謝しています。この1年余りできないことが多く、今思うとコンサートやまるごと市をよく取り組んでいたと思います。さをり織りもしばらく休んでいますが。過去12年近くの間にも多くの方々と知り合い、たくさん教わりました。そのつながりの中で生きて来られたのですね。きっと。これからの時期を見通すことが中々出来にくいですが、皆様と共に歩めるまるごと館でありたいと想っています。(うえたに じゅんこ)